

## 2231001 浅川進次郎

約1か月の渡英を通して思った事や感じたこと、体験した事。まず初めに、学校についてです。私達は、イギリスに滞在している内の3週間大学にて英語の授業を受けました。クラスには日本の他の大学から来ている人達もいました。始まって間もない間は、英語ができないのが恥ずかしく感じてしまい発言をする事も極めて少なかったです。正直最初の1週間は楽しくなかったし辛いと感じる事もありました。ですが、段々イギリスの生活に慣れはじめ、学校の先生や他大学の人達と話し始めると学校が楽しく苦しいや辛い等のマイナスな考えはなくなっていました。この様にたった1週間で学校が楽しいと感じる様になった要因の大きな1つはクラスの空気であると感じました。初日から先生たちは私たちに『don't be scared・don't be shy』とずっと言い続けてくれていました。それは1日目から最終日まででした。この言葉をずっと言い続けてくれたおかげで「間違えるのはしょうがない」「自分たちは英語がわからないから学びに来たんだ」と思えるようになり、気持ちが楽になりました。また、先生たちも授業中の発言の時や普通の会話の時でも、私が何を伝えたいのかを分かるまで聞いてくれていました。それがとても嬉しかったし、上手く伝えきれた時は話をするのが楽しいと感じる事ができました。先生たちは本当にずっと私達の事を考えてくれていました。本当に授業が好きになりました。

2つ目は、物事の見方です。イギリスの人たちは当然ですが我々日本人とは人種も歴史も何もかも違います。それにより彼らは私達とは視点や視野・考え方が全然違うんだなと感じました。また、自分自身の視野や視点も広がったなと思いました。例えば、ロンドン滞在中に賃上げのデモに遭遇しました。日本でデモといえば記憶に新しいのが国葬反対や沖縄の辺野古移設反対デモなどがあげられると思います。これらは余り良い印象とは言えないし、このデモによって変化があったとは知りません。ですが、ロンドンでのデモ当日は地下鉄が全て閉鎖していたり、無料のはずの大英博物館がはいれなかったり、デモの影響がとても大きい印象でした。また、バスやトラックがデモの人々の前を通り過ぎる時にクラクションや叫び声をあげて応援したり煽ったりしているのが印象的でした。彼らの中ではデモというのは国民の声を届けるために必要なツールであり、当たり前に関生活の中にある物であるという認識なんだなと感じました。

3つ目に感じたことは、人の優しさです。私がイギリスに渡る前に怖かった事がありました。1つは英語が通じない事。もう1つは差別や冷たい態度でした。欧米にはアジアンヘイトと呼ばれる差別がある事を知っていましたし、英語が喋れずコミュニケーションが取れない自分に対して冷たい態度をとられるんじゃないか、辛い言葉をかけられたりするかもしれないと思っていました。ですが、大学内のカフェテリアの店員さんや清掃員のおじいさん、ブックショップの方や寮の近くのスーパーの店員さん等様々な人とお話をする機会がありました。差別や冷たい態度をしてきた人は誰一人としていませんでした。私と関わってくれたすべての人が優しく温かく接してくれました。授業の中で個別に質問を作製し、学

校内の人達に質問をするという授業がありました。私は生徒以外にも食堂の方など様々な方に聞きました。中にはウクライナの方もいました。様々な国籍や身分や年齢の方がいましたが全ての人がおぼつかない私の英語を一生懸命聞いてくれました。とても嬉しかったし英語をもっと上手になりたいと思えました。また、道行く人やお店の店員さん色んな人が目が合うと笑いかけてくれたのがとても強く印象に残っています。他にもロンドンのホテルで、エレベーターの中で偶々会った人が私の T シャツを褒めてくれたりもしました。日本人は優しいと海外では言われていると聞くことがありますが、私は日本人が見習うべき所が数多くあると感じました。

私はこの1か月間でとても貴重で濃密な経験を得る事ができました。絶対にこの経験は自分自身に大きなプラスになると思います。本当に行く事ができて良かったなと思います。来年の英語講座にも是非参加したいと思っています。英語講座で身に着けて様々な事起爆剤にこれからの勉学を頑張っていきたいと思っています。